

【マスコミ各位】

平成27年10月2日（金）
沖縄県保健医療部 健康長寿課
担当：平良、山内
098-866-2209

腸管出血性大腸菌感染症（O-121）による集団発生について

1. 概要

平成27年9月10日に1名（25歳女性）、同年9月15日に1名（4歳男児）が、腸管出血性大腸菌感染症 O-121（VT2）と診断され、南部保健所管内の医療機関より届出がありました。

患者2名は、同じ保育園4歳児クラスの職員と園児であったため、同保健所が接触者調査として、届出患者の家族及び患者が通園する保育園の4歳児クラスの園児・職員について検便を行ったところ、保育園の園児4名（有症者1名、無症状者3名）において、O-121（VT2）の感染が確認されました。このため、保健所は接触者調査でO-121の感染が確認された園児4名の家族についても検便を実施し、このうち2つの家族で4名（有症者2名、無症状者2名）の感染が確認されました。このうちの2名は、同保育園に通園しているため、保健所はこの園児のクラスについても検便を実施しています（検査中）。

現在までに、計10名（届出患者を2名を含む）のO-121感染者が確認されておりますが、このうちの有症者5名に重症例はありません。

2. 施設（保育園）について

所在地：南部保健所管内（浦添市）

園児：112名

職員：26名

3. 医療機関からの届出患者

【25歳女性】

9月1日：下痢症状、微熱（37.2℃）腹痛

9月3日：医療機関を受診。検便を実施。

9月10日：医療機関において、腸管出血性大腸菌感染症 O-121 と診断され、直ちに保健所へ発生の通報及び届出を行った。

9月11日：保健所は、患者及び患者家族の聞き取り調査を実施

9月12日：患者の症状は回復

9月13日：検便（1回目）（9/18 陰性）

9月17日：検便（2回目）（9/19 陰性）

9月19日：検便（3回目）（9/23 陰性）

【4歳男児】

9月10日：一週間前から下痢症状があり、医療機関を受診

9月15日：医療機関において、腸管出血性大腸菌感染症 O-121 と診断され、直ちに保健所へ発生の通報及び届出を行った。

9月15日：保健所は、患者及び患者家族の聞き取り調査を実施。

9月18日：検便（1回目）を実施。（9/21 陰性）

9月19日：検便（2回目）を実施。（9/23 陰性）

4. 接触者調査（南部保健所）

(1)届出患者の家族

【25歳女性のA家族】

9月12日：家族5名の検便（9/18：全員陰性）

【4歳男児のB家族】

9月15日：家族3名の検便（9/19：全員陰性）

(2)保育園児及び職員

【4歳児クラス】

9月18日：園児19名の検便（9/24～10/1：陰性13名、9/24～10/1：陽性4名、検査中2名）

【職員（保育士）】

9月25日：職員18名の検便（10/1：陰性11名、検査中6名、未定出1名）

※調理従事者は、毎月1回検便を実施（9/15に検便、検査中）

【0歳児～3歳児、5歳児クラス】

検便等調査中

(3)感染が確認された4歳児クラスの保育園児4名の家族

9月25日：4家族（C～F）、合計13名検便（9/28：C家族3名はすべて陰性、10/1：D家族4名のうち陽性2名、検査中1名、9/28：E家族は3名のうち陽性2名、F家族3名は検査中）

5. 感染源・感染経路

現在、南部保健所で調査中。

6. 保健所の対応

(1) 保育園への衛生及び消毒指導

(2) 接触者調査及び検便の実施

(3) 健康調査の継続実施

7. 腸管出血性大腸菌感染症（感染症法で三類感染症）について

(1) 原因：腸管出血性大腸菌（ベロ毒素産生性大腸菌）

O-157、O-26、O-111などの血清型がある。

(2) 潜伏期間：2～5日が最も多いが、1週間以上のこともある。

(3) 症状：腹痛で発症、主に水溶性下痢、血便等。

溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こすことがある。

(4) 感染経路：経口感染（食物、水、感染者からの二次感染）

8. 予防対策

- (1) トイレの後や食事の前には手洗いを徹底させましょう。
- (2) トイレや手洗い器については定期的に、下痢や嘔吐などがあった場合にはその都度洗浄、消毒（ハイター等の塩素系漂白剤可）を徹底しましょう。
- (3) 万一、激しい下痢、出血を伴う下痢を生じた場合には、以下の事項に気を付けてください。
 - ア. ただちにかかりつけの医師の診察を受け、その指示に従ってください。特に乳幼児等やお年寄り等は注意してください。
 - イ. 患者の糞便を処理する時には、ゴム手袋を使用する等衛生的に処理してください。また、患者の糞便に触れた時には、洗剤で充分洗浄した後、70%アルコール等で消毒してください。
- (4) 患者や保菌者の便で汚染した衣類、寝具、おむつは、塩素系漂白剤にひたしてから洗濯しましょう。
- (5) 食品の賞味期限、保管方法に注意し、調理の際は十分加熱しましょう。

9. 直近 10 年の腸管出血性大腸菌感染症の患者報告数（届出人数）

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
全国	3,589	3,906	4,586	4,307	3,837	4,110	3,900	3,746	4,033	4,149
沖縄	40	30	45	21	47	16	48	24	17	25

【参考】

沖縄県感染症情報センター（沖縄県衛生環境研究所）

http://www.idsc-okinawa.jp/news/ehec/ehec_2014.pdf